

役員所感

副理事長 大嶋 賢一

クリミア自治共和国の分離・独立宣言、スコットランドの独立住民投票。国の利潤の追求、政治経済の方向性の差異が交錯し「国の再編・独立」といった動きが近年起きています。他国を巻き込む事態は忌々しきことですが、自地域の在り方を再考し行動を起こそうとする信念は必要です。国内では少子高齢化や原発問題、財政難などの問題を抱える地方公共団体がある中で上越市も例外ではなく諸問題に対し迅速果敢な実働が必要と考えます。

J Cの単年度制という特性に対して様々な意見を耳にすることがあります。しかしより明るく豊かな上越市にする為に明確なビジョンを持ち合わせた上で、斬新な発想のもとスピード感を兼ね備えたチャレンジが出来る組織、それが上越J Cなのだと考えます。1971年上越市が誕生しました。1965年に先んじて合併した高田及び直江津J Cの先輩諸兄は賛否の声が錯綜したであろう両市合併運動を力強く展開し、その思いの実現を果たしました。また同じく創始の思いであった新幹線が当年、延伸開業いたします。それぞれの目的を達成するべく毅然と運動を展開し、迅速に活動したことが実現へ導いたのだと考えます。しかしそれらが実現したことにより新たに13町村の編入合併に伴う過疎化、新幹線の停車数の問題やストロー現象への懸念、そして時代の変遷に伴うその他の憂慮すべき問題に直面しています。問題を解決すれば新たな問題が起こることは世の常と言えますが、我々の責務は豊富な社会経験と柔軟な発想を持ち合わせている世代のJAYCEEとして勇気を持って過去を検証し、今の時代に必要なビジョンを持って実働することです。

まさしく「混沌」と言わざるを得ない時代です。しかし我々J Cは「混沌」とした社会を「未知の可能性」と捉え長期的な夢がある未来地図を描き、中期的な実行可能な計画を示し、短期的な確かな実行力で物事を打開することが務めと考え運動を推進して参ります。